



基本理念

このホームが あなたにとって  
最高の我が家となりますように  
私たちがあなたにとって  
真の家族となれますように



活動目標

今日も一日 笑顔で  
ありがとうの心が通い合う  
地域社会の人々と共に  
楽しい暮らしを目指します



2011 年も残すところ、あとわずかとなり  
なりました。  
ご家族の皆様のご協力、応援により  
このホームも平和な 1 年を過ごす事が  
出来ました。  
本当にありがとうございました。  
入居者の皆様にも、たくさんの  
気づきを頂きスタッフもお育て  
いただきました。  
深く お礼申し上げます。  
管理者 今村 里美

スタッフ全員に聞きました！！ 今年一番印象に残った事は何ですか？

1 階職員

船に乗ってたから、料理も作りごったよとの  
会話の中で、柿の皮むきをお願いしてみました。  
慣れた手つきで何個もむいて下さり出来ることを  
また一つ見つけることが出来ました。また、別の  
入居者様が、「大庭先生に手紙をかかないと」と  
メモ帳とペンを手渡すと、文章を考えながら  
手紙を書いていらっしゃいました。もしかしたら、  
今でも出来るかもしれない・・・  
という可能性を日々感じることができました。  
今村 里美



会話に出てくる「海南島」はどこに在るかも知ら  
ない地名でした。地図上では中華民国の下の小  
さな島です。  
戦争中、タイピストであった彼女との会話がな  
ければ、気にもとめなかった新聞の記事でした。  
有馬 啓子



食事の時、「私達の小さい頃は食べる物が  
無く、一粒も米を残さず、好き嫌いなんて  
とんでもない時代だった」と思い出されなが  
ら色んなお話をお聞きして、改めて飢えも  
知らない事に感謝し、食の大切さを痛感いた  
しました。  
林 京子



ある入居者様が入所されて間もない頃、「私は吉松  
に帰りたい！」とおっしゃって、スタッフと一緒に  
近くのコンビニまで話をしながら、シルバ  
カーを押して歩いて行かれた事があります。すぐ  
そこでも、つい車に頼ってしまう自分だったら、絶対  
歩いて行かないでしょう。すごい脚力だなと思い  
ました。住み慣れた家への思いが、それほど強い  
という事でしょうか。現在は、ホーム内の散歩が好き  
でいらっしゃいます。「足がとても長くていらっしゃ  
いますね」と申し上げると「そうでっかあ」と笑顔で  
おっしゃる顔にホッとする毎日です。  
緒方 郁代



「今、宝島から帰ってきたよ！」と冗談を話す  
と「お前は冗談ばかり言うて！馬鹿が！」と笑  
って下さいました。いつになっても  
故郷っていいんだなあと思いました  
多賀 美代子



2階に、遊びに行かれるのが大好きな 92 歳の入  
居者様。その年齢とは思えないほどの、しっかりと  
した足取りで階段を登って行かれます。  
ある日、階段の 2 段目に腰掛け「あんたも、こ  
こに座ってごらん」と私を自分の前に座るように言  
われましたので腰掛けると、後ろからそっと抱きか  
かえて下さり「あったかいでしょうが」と、まるで  
子供に語りかけるように優しく、そして力強く  
感じ、母に抱きかかえられているような心地にな  
り思わず涙がこぼれそうになりました。  
石井 みどり



入居者様の横で書き物をしていた時の事  
ペンが転がっていき、そのペンを取っ  
て下さいました。「ありがとうございました  
」と言うと「私はね、気持ちのこも  
ったありがとうと、そうでないありが  
と位わかるんですよ」と言われまし  
た。何気なく言っている言葉が相手にはど  
んな風に伝わっているのか改めて考え  
させられるお言葉でした。  
加藤 奈々



一緒に洗濯物を干していた時の事「毎日  
洗濯物がたくさんあって大変ですね。あ  
なたたちのような仕事をしている人が  
いるから私達も安心して生活出来るん  
です」と、ありがたいお言葉をいた  
だきました。  
井手口 由美



奥さんと子供はいるの？と聞かれ  
「奥さんと子供を、大事に下さいね」と  
優しい言葉を掛けて頂き、元気が  
できました  
今村 誠



階段を降りる時に、手を握ると「こげな  
おじさんの手を握っても何もならんよ  
〜」と言いながらニコリ優しい笑顔。  
この仕事について良かったと思  
った瞬間でした。  
上村 美鈴



2 階職員

今年初めての試みで、外食を行いました。店への車  
移動の際、外の景色を眺めており「この道も変わった  
なあ」と昔との違いを話しておられました。店内での  
食事中、「たまには、こげんとも良かなあ。昔はよく  
食べに行きおった」とニコニコ話されていま  
した。入居者の皆様に喜んでいただけて、とても良  
かったと思いました。  
濱田 大和



11 月に避難訓練があり、利用者様も一緒に訓練に  
参加して頂きました。皆さん真剣に取り組み、い  
つも「足が痛か」などと言われる利用者様も、本  
番さながら、早歩きで庭へ避難されていました。  
これからも事故がないよう常に危機感を持ちなが  
ら皆様のケアに取り組んでいきます。  
阿波野 洋美



春、ミニトマトを植えようとしていた時の事。  
「何でんじゃっどん、トマトは夫婦で植えん  
な花が咲かんよ、実もならんよ・・・だから、  
偶数で植えんないかんよ」と教えて頂  
きました。本当に色々な事を知って  
いらっしやるなあと思い勉強させてもら  
いました。  
芝原 洋子



こちらで働き始めて間もない私に、利用  
者の方が、「ここに座りなさいよ」と優  
しく声を掛けて下さいました。色々  
なお話を聞かせて頂き、これからも  
頑張っていきたいと思  
いました。  
古河 千織



入居者様と接する毎日の中で、一番感  
じる事は、家族の絆です。  
ある方は、娘がちゃんと生活出来て  
いるか心配だと言われ、別な方は、  
あの子は涙もろい優しいから、声  
を聞くとすぐに泣くのよと言われ  
ます。皆さんご家族の方が面会に  
来られた時は、表情がパーと変わ  
り嬉しそうな表情になります。  
色々な事を、少しずつ忘れても家  
族が一番なんだと日々感じます。  
緒方 美紀



いつも、日常にメリハリをつける為  
、夜、パジャマに着替えて休んで  
頂くよう努めています。最初の頃  
は、「このままでいい」「何で着替  
えんないかん」とかの声があり苦  
労しましたが、今では声掛けす  
ると自分で着替えてくださるよう  
になりました。  
今村 ノリ子



終戦記念日の話、戦争へ行かれた  
時の話を聞かせて下さいました。  
「銃に打たれ、戦地を去り日本へ  
帰って来た」と苦労された話を  
教えて下さいました。物語の中  
でしか、知らない戦争が実感し  
て伝わってきました。この方々  
に少しでも役立ちたいと思  
いました。  
田村 浩次

